SR-03(2022)



# frasyrを用いた 再生産関係の推定:診断編

• check.SRfit関数を用いたSR関係のモデル診断



動画製作者 漁業情報解析部 資源解析グループ 福井 眞 shinfukui@affrc.go.jp fukui shin87@fra.go.jp

### SR関係推定結果の妥当性

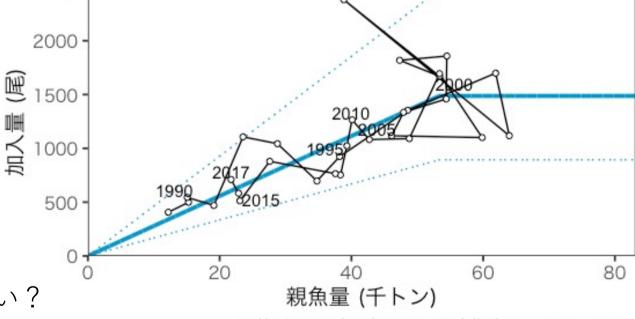
• plot\_SR関数のオプションplot\_CIで信頼区間(デフォルトで 90%)を表示 2500 T

右図は95%CI

果たしてうまく推定 できているのか?

• 残差は?

• 推定パラメータは正しい?



関数形: HS, 自己相関: 0, 最適化法L1, AICc: 14.08

### SR関係推定結果の吟味

- plot\_SR関数のオプションplot\_CIで信頼区間を表示
- 再生産関係推定のモデル診断の関数
  - check.SRfit:推定値の収束の有無や最適解に達しているか
  - check.SRdist:残差の分布
  - prof.likSR:プロファイル尤度
  - corSR:パラメータ間相関
  - [calc.residAR: 残差の自己相関]
  - [autocor.plot:残差の自己相関のプロット]
  - boot.SR:ブートストラップ解析
  - jackknife.SR:ジャックナイフ解析

#### check.SRfit:推定値の収束の有無や大域最適か

- check.SRfitでチェックされる内容:
  - ① 収束しているか (convergence)
  - ② ヘッセ行列 (Hessian) の対角成分が正定値 (positive definite) になっているか
  - ③ 境界条件(HSの場合SSBの両端、それ以外の場合直線関係や極端に強い密度依存関係)に達しているか
  - ④ 対数尤度が大域解 (global optimum) に達しているか
  - ⑤ 大域的最適解をもつパラメータがひとつに決まるかどうか (④で大 域解が出られている場合のみ)

# check.SRdist:残差の分布

• check.SRdistで返る内容:<sup>®</sup>

• 標準化残差の分布

• L1:ラプラス分布 (青点線)

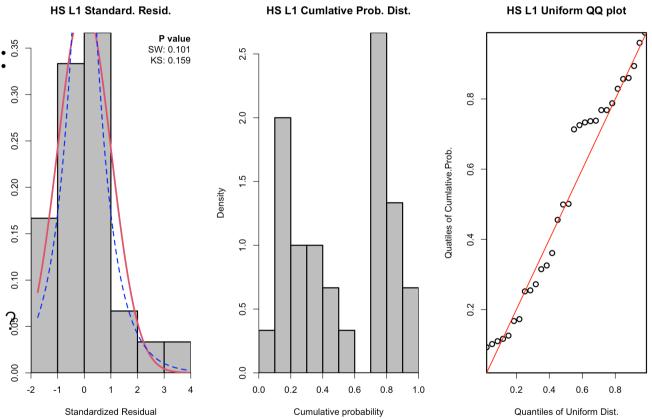
• L2:正規分布(赤線) になっているか?

• 累積確率分布

• 一様になっているか?

• QQプロット (一様分布)

• 1:1の直線上にのっているか ?

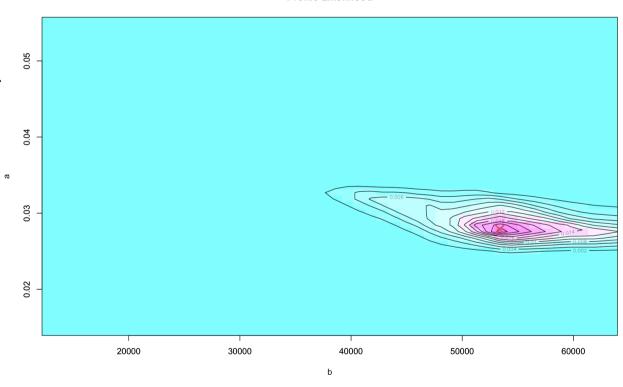


SR-03(2022) frasyrを用いた再生産関係の推定;診断編

### prof.likSR: プロファイル尤度

• prof.likSRで示されるもの: 推定されたパラメータ近辺で 少しパラメータを変更させた 時の尤度の差

局所解に落ちているか、 $a \ge b$ の相関が強すぎないか、などの様子を可視化

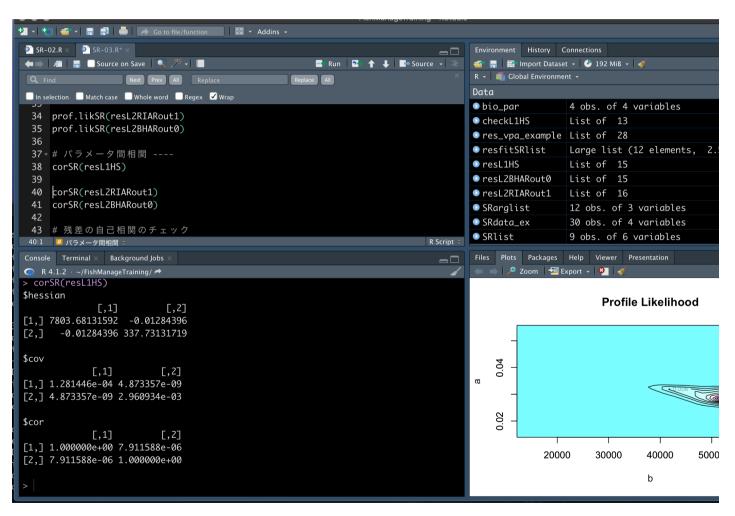


Profile Likelihood

#### corSR:パラメータ間相関

推定されたパラメータ 同士の相関などを出力

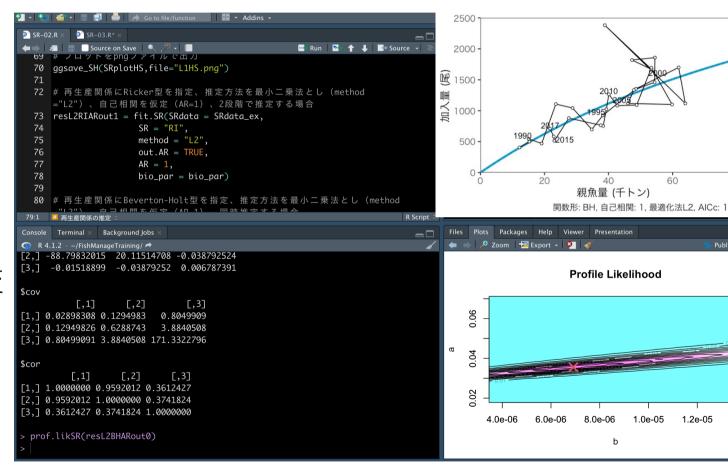
特にaとbの相関に注目



#### corSR:パラメータ間相関

推定されたパラメータ 同士の相関などを出力

特にaとbの相関に注目



SR-03(2022) frasyrを用いた再生産関係の推定;診断編

#### steepness

- スティープネス;
  - 再生産モデルの密度効果の程度
  - 0.2~1の数値 (SR=BH,RI)
    - 0.2では密度効果なし
    - 1では親魚量にかかわらず加入一定
  - BH/RI型では、F=0のときの初期資源量 $B_0$ とそれに対応する加入量を $R_0$ としたとき、親魚量が初期資源量 $B_0$ の20% (SSB= $0.2B_0$ )のときにモデルから算出される加入量 $R_0$ に対する比。
    - $h = SRF(SSB=0.2 SB_0) / R_0$
  - HS型では
    - $h = 1 b / SB_0$
- 再生産関係推定の際、bio parオブジェクトを引数に入れると、結果オブジェクトにsteepnessの項目が追加
- h算出に使うBo、Ro、SBo、SPRoも出力

```
B SR−03.R
🛑 🕽 📗 📗 🔲 Source on Save 📗 🔍 🎢 🗸 📗
 37 # パラメータ間相関 ----
 38 corSR(resL1HS)
    corSR(resL2RIARout1)
    corSR(resL2BHARout0)
 42
    # スティープネス
 44 resL1HS$steepness
    # 残差の自己相関のチェック
 47 outer1HS = calc.residAR(resL1HS, output = TRUE, filename = "residARouter
     # 残差の自己相関をプロット
Console Terminal × Background Jobs

  R 4.1.2 · ~/FishManageTraining/ 
  →
$cov
          \lceil,1\rceil
                    [,2]
[1,] 0.02898308 0.1294983
                           0.8049909
[2,] 0.12949826 0.6288743
[3,] 0.80499091 3.8840508 171.3322796
$cor
          [,1]
                   [,2]
                              [,3]
[1,] 1.0000000 0.9592012 0.3612427
[2,] 0.9592012 1.0000000 0.3741824
[3,] 0.3612427 0.3741824 1.0000000
> # スティープネス
> resL1HS$steepness
               SB0
1 330.4307 491442.4 1487.278 596037.5 0.8913961
```

### calc.residAR: 残差の自己相関

- 残差の自己相関
  - AR=1, outAR=Tとしたときの自己 相関係数を計算
  - 出力される\$parsはfit.SRで AR=1,outAR=Tとしたものと同値
  - AICなども出力

```
Console Terminal × Background Jobs ×

$ R 4.1.2 · ~/Dropbox/r_practice/projectR/ →

$ loglik
    AR(0)    AR(1)
    -2.149188 -2.142661

$ k

AR(0)    AR(1)
    1    2

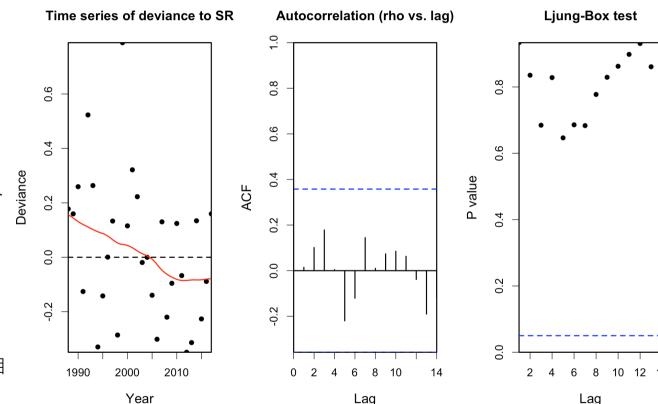
$ AIC
    AR(0)    AR(1)
    6.298376 8.285321

$ AICc
    AR(0)    AR(1)
    6.441233 8.729765
```

```
🚛 🕽 📗 🔲 Source on Save 📗 🌂 🥕 📗
    corSR(resL2RIARout1)
    corSR(resL2BHARout0)
    # スティープネス
    resL1HS$steepness
 46 # 残差の自己相関のチェック
    outer1HS = calc.residAR(resL1HS, output = TRUE, filename = "residARouter
    outer1HS
 49
    # 残差の自己相関をプロット
 51 autocor.plot(resL1HS) #デフォルトはuse.resid = 1
 52
46:15 # パラメータ間相関
Console Terminal ×
               Background Jobs
R 4.1.2 ~/FishManageTraining/ 
 outer1HS
$pars
1 0.02786598 53372.54 0.259883 0.02080394
$arima0
Call:
arima(x = deviance, order = c(0, 0, 0), include.mean = FALSE, method = "ML")
sigma^2 estimated as 0.06757: log likelihood = -2.15, aic = 6.3
$arima1
Call:
arima(x = deviance, order = c(1, 0, 0), include.mean = FALSE, method = "ML")
```

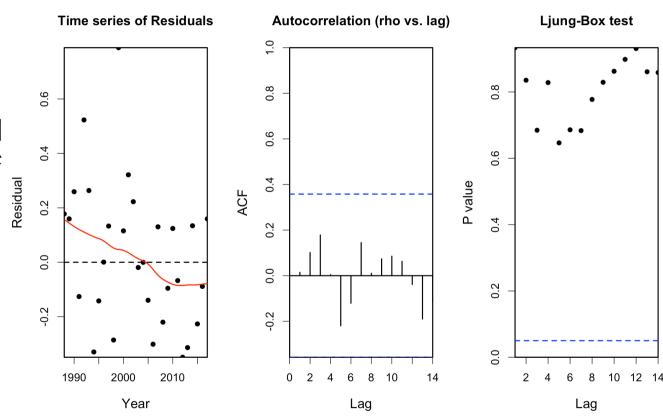
### autocor.plot:残差の自己相関のプロット

- 残差の自己相関プロット (デフォルトのuse.resid=1)
- 再生産関係との残差の時系列
  - 赤い線は平滑化された曲線
- ラグを**1.2.3** 年と増やした場合 の自己相関係数
  - 青い線は95%信頼区間
- Ljung-Box検定におけるp値
  - 帰無仮説;ラグが1~mまでの全ての自己相関が0である
  - 対立仮説;ラグ1からmまでの自 己相関のうち、少なくとも一つ が0でない
  - 赤点で表示される箇所が有意

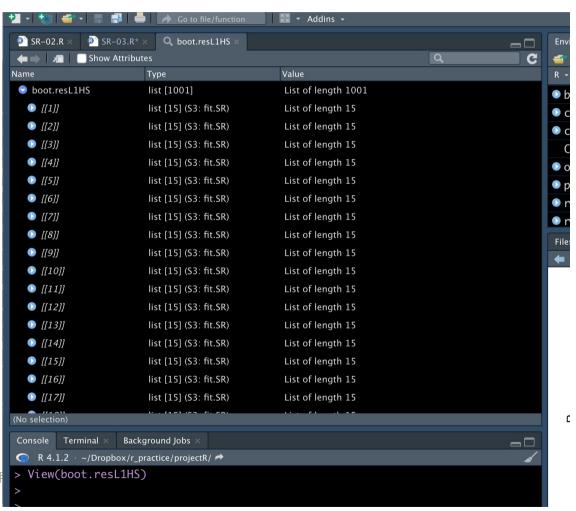


### autocor.plot:残差の自己相関のプロット

- 残差の自己相関プロット (use.resid=2)
- 1つ目のプロットは自己相関 を推定した後での残差の時系列
  - 赤い線は平滑化された曲線
- 2つ目3つ目はuse.resid=1
- output=Tで図を保存
  - autocor.plot(resL1HS, output = TRUE, filename = "devianceAR")



# boot.SR: ブートストラップ解析



SR-03(2022) frasyrを用

# jackknife.SR:ジャックナイフ解析

# SR関係を診断できた!



• frasyrを使ったSR関係推定結果の診断については以上です

お疲れ様でした!

